

第17回網走市選挙する未来会議発言要旨（令和7年2月14日（金））

～第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案および委員からのご意見について、資料に基づき事務局より説明～

●議長

まず基本目標1のところ、何かご意見等ございましたらお願いいたします。

（委員から意見等なし）

●議長

基本目標1は、こちらでよろしいでしょうか。

続きまして基本目標2のところ、何かご意見ございますでしょうか。

○委員

台湾、香港のインフルエンサー（※委員からのご意見2P中段）ということですが、この方たちは台湾、香港の人に向けて発信しているんですか。

●事務局

一義的にはそうなりますが、ネットですので、世界中に発信という解釈でよろしいと思います。言語は香港、台湾の方向けですが、今は同時翻訳アプリなどもありますので、台湾、香港の言葉がわからない方が理解できないというものではないと認識しています。

○委員

日本人はいないんですか。

例えば今、いろんなところで観光大使とかあるじゃないですか。網走の観光大使をやってくれるような人はいないんでしょうか。

●事務局

数名おりますが、現在は主だった活動はございません。

○委員

6ページの【1-2】国内外への販路拡大なんですけども、対EU輸出水産食品取扱認定施設保有企業数が、令和5年度5社から令和11年度6社に増えてますけども、網走港からの移・輸出入貨物取扱量が37万トンで同じというのは、何か根拠があるんですか。

通常だったら上乗せというか、増えていくのかなと思うんですが、違いますか？

●事務局

対EU輸出水産食品はHACCPと言われるもので、その認証を取得する企業数をKPIとしています。

網走港からの移・輸出入貨物取扱量につきましては、輸出水産食品のみならず、石炭や木材といった網走港の輸出入貨物の取扱いすべての合計ですので、認証企業が増えることと貨物の取扱量は、関連性はありますけども、直接紐づいているものではございません。

○委員

ということは、貨物取扱量は伸びがないということですか。

●事務局

貨物の取扱量は、増える要素がなかなか無い状況です。

ここ数年では、能取地区の風力発電施設7基が入り、あれが比較的大きな取扱いでしたが、その他木材や石炭は下降気味のようです。安定して取り扱えているのは小麦くらいじゃないでしょうか。

○委員

小麦の話が出ましたけども、小麦も今、問題が起きていまして、こっちにカラで来る船がなかなか来てくれないという問題があります。

年々来る船の量が減っているのと、あと人手不足で、ここから小麦を運び出す中型船が廃業しているというのがあって、今は非常に物流が滞っています。

冬の間、流氷で閉ざされるというのは想定の内なんですけども、それを想定して今まで潤沢にある程度出ていたんですけど、ここ2、3年、コロナの影響もあって人手不足で船が出せないと。

あともう一つは、ロシアとウクライナの戦争が始まってからは、国境のあたりを船会社になるべく通りたくないという状況にも置かれていて、船が今来なくて非常に困っている状況でして、これから船が増えるかという、それもちょっと厳しいので、物流は本当に考えなければならぬところに来ているという現状です。

本来ならこのまま安定して出していけばいいんですけども、今の状況だとなかなか苦労しているところです。

○委員

陸路だとやはり、輸送量的に厳しいですよ。

○委員

陸路も陸路で人手不足で、運ぶトラックがあっても乗る人がいないという状況です。

陸路である程度は出せるんですけども、網走だけではなくオホーツク全体の小麦が集まっていますので、ちょっと今困ったなという状況です。

○委員

こればかりはどうしようもない面もありますよね。

●議長

その他、なにかございますでしょうか。基本目標2もよろしいでしょうか。

続きまして基本目標3のところ、いかがでしょうか。

○委員

子育てしやすいまちというのも、やはり発信していけばいいなと思うんですよ。

○委員

先日、子ども子育ての会議の方にも委員で入っていまして、網走独自の取り組みのことで、医療費のこととか、給食費の話も出ているんです。

娘に聞いたら、網走でやっている施策についてけっこう利用してたり、そういうのがあることを知っていて、私はあまりわからなかったんですけど、利用する立場の娘は意外と知っていて、ちゃんと子どもを連れて行っているということも聞きました。

その会議の中でも、網走独自に取り組んでいることはあるんだけど、場合によっては、周辺市町村ではやってないけど網走だけがやっているということをもっとPRしたら、もっと網走は子育てしやすいまちなんだということを市民の皆さんにもアピールできるといいよねという話が出てました。

そういう意味では、他の地域にないことをやっているということは聞いて良かったなと思いました。

○委員

ぜひその辺を発信していただいて、他の市町村でそれをアピールして人が増えたというところもありますので、やっていることはどんどん積極的に出していくといいと思います。

○委員

明石市なんかそうですね。同じように、網走は災害も非常に少ないので、そういったところも含めてやれるといいなと思いました。

○委員

意外と知られていなかったりしますので、網走のイメージは暴風雪とか雪のイメージはありますけれど、実際はそうでもないですね。

○委員

今年も、冬の天候だけ見ても北海道の中で一番安全な状態というか、帯広の大雪なんかもありまして、そういう意味では気候も安定しているというのも含めてね。

○委員

外の人はなかなかそういう情報も知らないと思います。

何かそういう情報を発信するような仕組みが、インフルエンサーもそうですけど、いろんな人に発信してもらうというの、やはり外の人に知っていただかないと、なかなか来るといふ発想にもならないでしょうし、ぜひそういったこともお願いします。

●事務局

子育てしやすいまちだよと、様々な施策をやっているんだという部分、それから企業誘致のお話もありました。気候が安定していていいまちだよというお話もありました。その辺り、外向きには紙での宣伝はなかなか難しいんですけども、公式ウェブサイトも2年前にリニューアルいたしましたので、サイト内に分散している情報を一元化するなど、見やすい工夫をしながらPRに努めてまいります。

○委員

そういう意味では、あとは誰か発信する人ですね。

○委員

サービスを受ける側には正確に伝わっているということは、私としては実感があるので、それは良かったなと思っています。

○委員

あとはそれが、ほかではないことだということ認識していただくことも必要かなと思います。そうするとそこからまた、口づてで他の地域の方にも知られるということにもなるのかなと思います。

●議長

基本目標3はこちらでよろしいでしょうか。

続きまして基本目標4、地域を支える人材の育成ですね。

○委員

リカレント教育は色んなところで、大学でもできる場所です。

だから、網走市民に向けたリカレントが何かというのはやはりいろいろ考える必要があるのかなと思うんですね。

我々の大学もできることはいろいろあるかと思うので、市と一緒に情報共有しながらやっていきたいと思っています。

我々の場合、水産系の学科もありますし農業系の学科もありますし、あとは網走市の方々がどういうリカレントを求めているかですね。経営的な側面でもそういう学科もありますので、場合によっては世田谷キャンパスの人材というのもありますので、どういうものが求められているかというのがわかれば、お互いどうすればいいかという方向性も出せるのかなと思います。

●事務局

リカレント教育を進めていく中では、受け皿になっていただける知見を有する団体は東京農大だと思っています。

どういうリカレント教育が求められているかもありますが、まず農大でどのようなもので

あれば受け入れられるものなのかということも、相談に乗っていただければと思います。

以前、生涯活躍のまちという取り組みを試みたことがございます。首都圏の人材をこちらに呼んできて、農大で授業を受けていただくというようなことでしたが、どうにも需要の掘り起こしが難しい部分もあり、そういった反省も踏まえながら、新たに人を呼び込む策の一つとして、お知恵をお貸しいただければと思っております。

●議長

その他、どこか何かございますでしょうか。

○委員

大都市からの人材確保で、地域要件が厳しいという回答（※委員からのご意見 4P 中段）があるんですが、これはどういう制限があるんでしょうか。

●事務局

都市部から人を呼んでくる取り組みでは地域おこし協力隊という制度があります。三大都市圏に集中した人を地方に分散させよう、地方で地域おこしをしてもらおうという国の制度です。

もともとの目的が、人口密集地から地方に人を移動させるものですので、国の制度として、過疎地じゃないところは人を呼んできにくいんです。

網走の場合は三大都市圏、それから札幌市と熊本市以外からは地域おこし協力隊として人を呼んでこれない状況です。応募してくださる方は全国に居るんですが、国の制度と照らし合わせたときに地域要件を満たしておらず連れてこれないといったような例がほとんどです。

周辺の過疎指定を受けている町ですと、例えば管内から連れてきても網走市から連れて行っても国はOKしますが、網走の場合は東京、大阪、名古屋の三大都市圏と札幌市、熊本市以外からは連れてこれないという高いハードルがあります。

現在、地域おこし協力隊はなかなか進んでおりませんが、そもそも連れてこれる人が限られているという背景もございます。

○委員

そうすると、別の形で呼んでくるしかないということですね。

○委員

子どもが非常に少なくなっていくって、私が心配しているのは機会の喪失というか、大都市圏では受けられるんだけども、田舎だとなかなか難しいということが増えてきたり、生徒数が減少するとやっぱり競争の問題もあったりします。

私は道職員なんですけども、道職員もある程度、子どもが小さいうちは皆さん、子どもを連れてきて移動されるんですけど、その子が中学校に進学するようになると、お母さんとお子さんは札幌でお父さんだけ移動したりとか、そういう状況があって、結局そこで中学、高校を過ごすとなると札幌圏の生活に慣れて、網走に仕事で就職したときに、なかなか地域に定着できなくて辞めちゃうということもすごく多くて、紋別にも道職員の職場がありますけども、本当に1年以内にかかなりの人数が辞めちゃうんですね。

やっぱり札幌とか東京とかで大学に行って学んで、楽しい場所も機会もあるというのがあって、就職の問題もあるんですけど、それよりも子どものうちに経験できることを、ということで、もう少しそういうことにも注目しなきゃいけないのかなと。

この間、網走バスさんの関係で地域交通の未来を守る会というのがありまして、田舎の子どもは公共交通機関に乗る機会がないという話もありまして、バスに乗るという学習だとかも、ということも言われていましたけど、そういう視点も持ってやっていかないと。

あとはインターネットもあるので、高度な学びの場だとか、本人が興味を持ったときにそういうものを提供する方法というのは、都会じゃなくてもやれる方法というのはきっとあるんだろうと思いますので、それこそ大学の皆さんとかと連携しながらそういう機会を作っていただけると、孫も安心して通学できるかななんて思ったりもしました。

そんなことを考えたりしながら、子どもは本当に多く、どんどん増えていただければ一番

いいんですけども、なかなか簡単にはいかないと思うので、そういうことも何か意識していただければありがたいかなと思います。

●議長

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
続きまして基本目標5、安全安心で持続可能な地域づくりについてです。

○委員

市営住宅の件（※委員からのご意見5P中段）が書かれていますけど、今市営住宅に入っている方はほとんどが海外の方なんですか。

●事務局

各企業の皆さんは、人手不足を補うために、外国人技能実習生や特定技能者を活用しておりますが、人を連れてきても、住ませる場所が確保できないという意見もあったところで

す。
それに対応し、企業が社宅や宿舎を準備するときの改修の支援、空いている市営住宅を従業員宿舎として、北海道の許可を得て貸し出す取り組みを令和6年度から始めました。

20戸を開放しましたが、その20戸に対して19人、外国人技能実習生が入居しております。令和7年度は、北海道の許可が降りれば、さらに20戸を追加する予定です。

●議長（東京農大）

そのほか何かございませんでしょうか。

○委員

23ページの【2-2】地域コミュニティ活動の推進なんですけども、できたらもうちょっと具体的に教えてもらえますか。

●事務局

具体的な内容はこれからです。

回覧板を持って行くことなどが負担で役員のなり手が居ないといった話を聞きます。そこを例えばデジタル技術で電子回覧ができないかですとか、あるいはそれを使いこなすためには当然教室を開いたりというところもあるでしょうし、そういった取り組みをしていこうというのの一つ。

あとは、皆さんが集まって何かやろうとしたときに、その活動に対して若干支援をするというメニューも令和6年度から立ち上げましたので、この活用も含めながら、皆さんが集まって地域で楽しく活動できる、その後方支援といいますか、背中を押すようなことをしていく方向性です。

○委員

活動というのは、例えば事業を起こすみたいな形で各地域でやろうとしたときに、市が面倒を見ますよという解釈でいいですか。

すべてを見てくれというわけではなくて、地域でやっぱりまちおこしみたいな形でやってみようと思うんですけど、例えば盆踊りとか夏祭りとか、そういう地域をもっと活性化しようとしてやっているところがあると思うんです。

そういうところに対しても、これから支援しますということでもいいですか。

●事務局

地域の活動を支援する方向性です。
支援の内容は、具体的なものはまだございません。

●議長

その他いかがでしょうか。
基本目標1から5まで一通りご覧いただきましたけども、全体を通して何かお気づきにな

ったことがありましたらお願いします。

○委員

「はじめに」の部分で、人口の将来展望について、足元の状況を踏まえて下げたんだと思うんですけども、2040年の人口が当初の2015年のビジョンでは3万2千人台で、2万1千人という形に修正されるという理解でよろしいですね。

3万人を切るというのは当然みんな思っていると思うんですけど、これで言うと2万人も危ないのか、となると思うんです。もちろん人口統計上の算出方法でやってるので間違いはないと思うんですが、イメージ的に約15年で2万1千人ということは、もう近々3万人を切るような状況ですね。

毎年の数字も計算されてるんですよね。

●事務局

5年に一度の国勢調査に基づいて、国が将来推計を出しています。その推計方法に準じて算出し、今回、人口ビジョンも改定いたします。2万1千人は2050年時点の推計値で、2040年同士の比較では、前回推計では3万2千台、今回推計では2万5千台です。いずれにしても減少率は進んでおります。

人口が減ることを避けられない事実として捉えながら、まちづくりを進めていこうというところです。

○委員

かなり前提条件が厳しいですね。

○委員

人口減少について大学のレポートでも出しましたが、推計よりもかなり厳しいという分析をされていて、外国人労働者の受け入れは待たないという内容のレポートを読んだことがありますけど、そういう意味ではどうしていくのかというのは必要になりますよね。

ただ、シビアに見ないで楽観的な推測に基づくと、かなり逆に厳しい状況になるのかなと。

2万1千人と言われちゃうと、確かにびっくりはしますよね。

○委員

減るのはもう確実なので、それに合わせてどうしていくかですね。

●事務局

直近の国勢調査の結果を見ますと、2020年以降、都道府県単位では東京都以外はすべて人口が減っています。その東京ですら2040年以降は減っていくという推計されています。

北海道では、これまでずっと札幌が独り勝ちの状態でしたが、その札幌ですら既に人口減少の局面に入ったと言われております。3年連続で人口が減っています。

ただ、国勢調査を5年前と直近で比べますと、国民全体が1億人を下回る年は少し先延ばしになったんですね。国内人口は減るんですが、その以上に外国人の流入があるという見立てです。

この10年の地方創生の取り組みは、人口問題会議の中では、地域間で人を奪い合っているだけだとの厳しい指摘もいただいております。奪い合いではなくて全体で底上げしていくというような取り組みに、これは基礎自治体の取り組みだけではどうしてもできない部分でもありますので、国全体で考えていなければならぬことと思っております。

○委員

ちなみに高齢化率というか、働かない人口は算出されているんでしょうか。

●事務局

65歳以上を高齢人口として区切っておりますけども、この比率も少しずつ上がっていきます。2040年では4割を超え、2050年には42.8%となる推計です。

国全体では、2050年には、47都道府県中、北海道を含めて25の道県で高齢化率が4割を超えると推計されております。

○委員

パブコメに出すんですよね。

市民の方はちょっとびっくりするかもしれないですね。3万人切るというのはみんな想定内なので、あと何年だろうねというのがありますけど、2万人というのはいちよつと衝撃的という感じですね。

●議長

その他、全体を通していかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは議題1はこれで終わります、議題2 その他ですけども、何か事務局からありますか。

●事務局

今後のスケジュールについてご説明申し上げます。

今回ご審議いただいた第3期総合戦略は、皆様からの意見をまた反映しまして素案としますが、庁内でも引き続き施策内容、KPI等について精査を続けまして、表現、文言等はいちよつと変更となることがありますのでご承知おきいただければと思います。

今後、2月末から素案に対するパブリックコメントを実施しまして、結果を集約して3月下旬に開催を予定しております本会議において、最終案についてのご意見をいただいて成案となる予定でございます。

引き続きご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○委員

パブリックコメントはどのような形で行われるんですか。

●事務局

公式ウェブサイトでのご意見の募集、それから市の庁舎をはじめ、コミュニティセンターや住民センターなどに意見箱を設置し、素案の内容とその概要版のパンフレットを置きまして、直接紙でそこに意見を入れていただけるようにもいたします。

1か月かけて広く市民の皆さんからこの戦略に対するご意見をいただこうと考えております。

単純な質問やご意見など文言整理程度の修正のものは別として、戦略の内容自体を変更しなければならぬようなご意見は、もう一度また皆さんにご意見をいただく場を設けたいと思っております。なかなかタイミングとしてお集まりになりにくい時期かなとも思いますので、内容によっては書面による協議というような手法も考えながら、進めてまいります。

●議長

何かご質問等よろしいでしょうか。

それではこれで本日の議題は終了となります。

どうもありがとうございました。

(以上)